

☆障がいのあるなしに関わらず、すべての子どもたちに向き合う、
すべての教職員のみなさんにおとどけします☆

三木裕和

教育講座

日時 **2022 年 12 月 3 日(土)14 時～17 時**

会場 **あすてらす(大田市) & オンライン**

講師 **三木裕和さん(立命館大学教授)**

内容 **第 1 部：講演会**

**「競争社会を生きる子どものココロ
ー自己肯定感というけれど」**

第 2 部：質問コーナー **「教えて！三木先生」**

第 3 部：個別相談会 ※講座終了後、希望者

参加費 **500円** (※島根県教組組合員または実行委員は補助)

※オンライン参加者は口座振込で。ZOOM の ID 及びパスワード送ります。

●主催：島根県教職員組合

●後援：大田市教育委員会



教育講座 参加申込書

○12/3 三木裕和教育講座に参加します

() 学校・学園 氏名 ()

※○で囲んでください。

島根県教組組合員

未組合員

参加方法

会場

オンライン

※オンライン参加希望者は、連絡先としてメールアドレスを ()

※このまま、県教組まで FAX (0852-24-5280)

 kenkyoso@d5.dion.ne.jp でお送りください。

QR コードからも申し込みます。



お問い合わせ 島根県教職員組合 〒690-0886 松江市母衣町 55-2 教育会館 2F

TEL/0852-21-2767 **FAX**/0852-24-5280 **MAIL**/kenkyoso@d5.dion.ne.jp

三木先生ってどんな人？



講師：三木 裕和さん

私は、学生時代、鳥取大学で三木先生の講義を受けていました。学生の私はあまり真面目な方ではありませんでしたが、三木先生の講義は、面白くて、あったかい気持ちになれて、いつも楽しみにしていました。講義では、三木先生が現場におられた時の子どもたちの写真を使って、「この子はこんなことができるんやあ！」と関西弁で話され、「これができるのは、こういう発達段階だからなんです。」と発達の的なことを教えてくださいました。

また、私の印象に残っているのは、「この中で、先生どうしようかなあ？って迷っている人いる？もしいたら、是非なってください！先生ってちゃんとしてないとあかんって思ってるかもしれないけど、色んな先生がいていいんです！その方がいいんです！」と言われたことです。このお言葉もあり、私は今教師ができているのだと思います。子どもの見方だけでなく、大人自身もあったかい気持ちになれる、そんなお話をしてくださるのが、三木裕和先生です。

（古江小 門脇光希さん）

三木先生のお話はいつも、子どもたちへの深い愛情と尊敬を感じることができ、そして、子どもたちのことを話されているのに、聞いている誰もが自分に向けられているかのように感じる、心癒やされるお話です。

悩んだり、疲れ果てている先生方、必聴です！

（玉湯学園 与倉麻美さん）

2017年

〈障教部三木先生講座より〉

「学校教育に必要なものは、子どもたちが『懂れることのできる存在』です。ご褒美がほしくてしている子は稀であり、子どもたちは『したいから、する』のです。」

三木先生のお話は、これまで何回かお聞きしました。講演会で自らの実践を話されたり、教育のつどいで基調提案をされたり、分科会で質問したことにも真摯に答えて頂いたり…そのいずれもが子どもに向ける温かなまなざしにあふれ、ユーモアがあり、こちらの気持ちを優しく包んでくださいました。昨年の全教青年部交流集会での講演で、そんな先生の原点ともいえるべきお話を聞かせて頂きました。高校の社会科教員から、養護学校義務制の施行に伴って故郷に戻られたこと、最重度のお子さんを担任されて悩んだこと、そしてたどりついたのが「教育の基本は相手の身になることだ」ということ。自分に欠けているこの視点をもう一度思い出させてほしい！講座が本当に待ち遠しいです。

（西野小 小松雪乃さん）

〈「自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価2」総論より〉

「自閉症児が活動を楽しんでいると感ぜられるストライクゾーンは、決して広くはありません。感覚の過敏性から『不快』を拾いやすいという事情もあります。楽しいと感じているときでも快の表現が定型的でなく、傍からはムスッとしているように見えることさえあります。さらに、楽しい活動であっても、その受け止めにタイムラグがあり、かなりの間をおいてから、楽しさを表現することもあります。」

つまり、自閉症教育において『楽しさ』を実現するのは『当たり前』の容易さではなく、価値ある取り組みのはずなのです。（中略）

友だちが好き、先生が好き、授業が好きという感情を子どもたちが体感することは、オプション的な価値としてではなく、本質的な価値として学校教育が志向すべきものと考えます。」